

令和8年産

稲作情報 No. 2 十日町版

令和8年3月26日発行

十日町地域農業振興協議会

JA 魚沼、十日町市、津南町、

NOSAI 新潟魚沼支所、

十日町農業普及指導センター

LINE で情報発信中！

・水稲栽培情報  
・消雪情報など

友達登録は  
こちらから



## 土づくり、漏水防止、生育状況に応じた基肥で、稲づくりの土台を作りましょう！

- 近年の異常高温に対応するため、ケイ酸を施用するなど土づくりを進めましょう！
- 水不足に備えて亀裂の修復や丁寧な代かきを行いましょう！
- 移植後は、活着まではやや深水、活着後は浅水にして、分けつを早期に確保しましょう！ワキや藻類が発生する場合は水を入れ換えましょう！

### 1 本田の準備

#### (1) 事前準備

- 昨年の干ばつで、ほ場や畦畔にヒビが入っている可能性があります。
- 消雪後は、ほ場や畦畔の亀裂による漏水がないか点検し、早めに補修作業（図1）を行いましょう。
- 耕耘前になるべくほ場を乾かしましょう。耕深が一定となり、均一な生育に繋がります。

タイヤで鎮圧して、あぜ際からの漏水を防ぐ！



図1 トラクターによるあぜ際の鎮圧（農研機構 HP より引用）

#### (2) 土づくり

##### ア 物理性の改良

- 根の健全な発達を図るため、作土深は 15cm を目標としましょう。作土を深めに確保することで根の分布が広がり、高温や乾燥の影響を受けにくくなります。
- 水持ちが悪い場合、ベントナイト等の保水性を高める資材を施用し、改善に努めましょう。

##### イ 化学性の改良

- 土壌診断結果に基づいて土づくりを行いましょう。
- 全域でケイ酸不足のほ場が散見されます。  
＜ケイ酸の効果（抜粋）＞
  - ① 茎や葉の強度を高め、倒伏を抑制する。
  - ② 根の吸水力を良くし、高温時の品質低下を軽減する（図2）など。

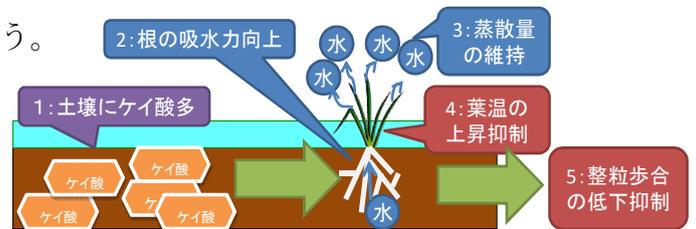


図2 登熟期が高温の場合のケイ酸の効果

- ケイ酸質資材は、春または秋の耕耘前、もしくはイネがケイ酸を多く吸収する出穂期前 40～35 日頃に施用しましょう。

#### (3) 基肥

- 施用量は表1をめやすとし、地力や前年までの生育状況等を考慮しほ場ごとに調整しましょう。
- 全量基肥肥料の窒素施用量は、分施肥系の総窒素施用量（基肥＋穂肥）の8～9割としましょう。高温時は追肥で対応することとし、基肥量を増やしすぎないようにしましょう。
- 有機50%の全量基肥肥料を活用する場合は、穂肥時期の溶出窒素量が少ないため、必ず穂肥を1回以上施用する設計としましょう。

表1 土壌タイプ別の基肥施用量めやす（分施肥体系）

土壌タイプ	成分量(kg/10a)		
	窒素	リン酸	カリ
粘質の湿田	2～3	4～10	4.5～6.0
作土の下に礫のある水田	3～4	4.8～10	
黒ボク土壌			
中里台地	5		

穂肥の時期に葉色が低下してきた場合は、追加の穂肥を施用しましょう！



#### (4) 耕耘・代かき

- 耕耘はほ場が乾いた状態で行いましょう。過湿の状態で行うとワキが発生しやすくなり、生育に悪影響が生じます。
- 代かきで練り過ぎると土壌の酸素が不足し、苗の活着や根張りが悪くなり初期生育が遅れるので、注意しましょう。
- 干ばつで亀裂が生じたほ場は代掻きの回数を増やすなどし、丁寧に行いましょう。
- 除草剤の効果を高めるためにも、丁寧な代かきを行いましょう。ほ場の漏水防止と均平化により、除草剤の処理層が形成されやすくなり、効果が高まります。
- 浅水で代かきを行うと田面が確認しやすく、均平が取りやすくなります(図3)。限られた水資源を有効に活用しましょう。

土が8割見える状態で、田面の高低差±3～4cm以内になるように仕上げましょう。



図3 浅水の代かき作業の様子

## 2 移植(田植え)

- 表2のポイントと注意点に留意し、健苗(稚苗:2.1葉、中苗:3.5葉)を適期に植えましょう。移植時に苗が水没しても、健苗であれば、稚苗の場合、胚乳の栄養で5日程度冠水しても生育に影響ありません。
- 移植前に弁当肥を施用すると、根の活着が良くなり初期生育を確保しやすくなります。
- 葉いもち防除は育苗箱施用剤等で必ず行いましょう。補植苗の放置はいもち病発生の原因となるため、補植は移植後すみやかに行い、余った苗は終了後直ちにほ場周辺から除去しましょう。

表2 田植え作業のポイントと注意点

	ポイント	注意点
移植日	好天日	強風・低温時の移植 → 活着・初期生育の遅れ
栽植密度	50～60株/坪	多い → 過繁茂・細莖化 少ない → 莖数不足
植付本数	3～4本/株	多い → 過繁茂・細莖化 少ない → 莖数不足
植付の深さ	2～3cm	<u>深い → 活着の遅れ、分げつの発生抑制</u> 浅い → 欠株の発生、除草剤による薬害

移植までの葉色を維持するためにも、弁当肥を施用しましょう!



※育苗管理のポイント及び弁当肥の施用方法は稲作情報 No.1 をご覧ください

## 3 移植後の水管理

### (1) 移植後の基本的な水管理

- 水を更新する場合は早朝に入水し、日中は止水して水温の上昇を図りましょう。
- 表3を参考に水管理を行い、活着後は浅水とし、初期分げつの発生を促進しましょう。

表3 水管理方法と目的

時期	水深のめやす	目的
活着まで	水深3～4cm ※強風時は4～5cm	保温・苗の保護・活着促進
活着後～	水深2～3cm	分げつの促進

活着まで



活着後～



## (2) ワキ、藻類（アオミドロ）・表層剥離の防止対策

○ワキ(生わら等有機物の分解によって発生する有毒なガス)や藻類・表層剥離は、移植後の地温の上昇に伴い発生します。大量発生する前に用水を更新（夜間落水）しましょう。

**※ただし、除草剤処理後7日間は落水やかけ流しはしないでください。**それ以降は、2～3日程度落水しても、除草効果に影響はありません。

表4 ワキ、藻類・表層剥離の発生要因とその影響

種類	発生要因	発生程度	生育への影響	対策
ワキ（ガス） 	・田に水を張った還元状態で有機物(稲わら等)の分解が進展 ・秋～春にかけて湛水していたほ場で発生多	ほ場に足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	水の更新（夜間落水）
		ほ場に足を踏み込むと盛んに気泡が発生する	根張り不良	水の更新を繰り返す
		晴天時自然に気泡が発生し音が聞こえる。またほ場を歩くと著しく気泡が発生する。	根の伸長阻害 地上部黄化	間断かん水
藻類・表層剥離※ 	・田面水の栄養が豊富な状態（特にリン酸） ・深水管理	ほ場で藻類・表層剥離※が多く見られる ※繁殖した珪藻類で、土壌表面が固まり、表層が剥離する現象	分けつ抑制 除草剤の効果低下	水の更新（夜間落水） 登録のある除草剤の散布

## 4 初期・初中期除草 ～雑草種に応じた効果の高い除草剤施用を～

○粒剤散布時の水深は3～5cm程度、フロアブル剤・ジャンボ剤・少量拡散剤（豆つぶ等）は水深5～7cmとしましょう。薬害を防ぐため、極端な低温や高温、強風時の散布を避けましょう。

**【遵守】 除草剤処理後7日間は確実に水尻を閉め、落水やかけ流しはしないでください。**

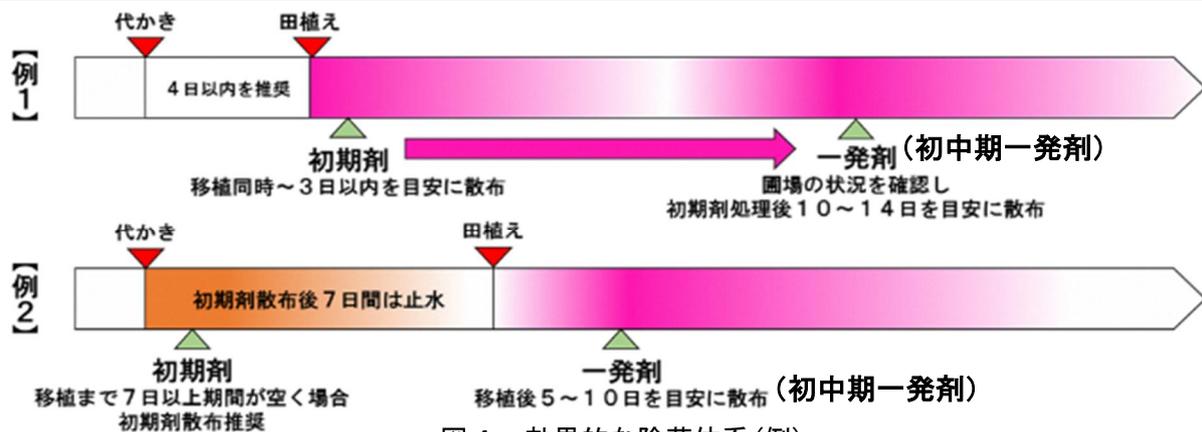


図4 効果的な除草体系(例)

※農薬を使用する場合は、農薬使用者が使用農薬の登録内容を確認し、自己の責任において使用してください。他の作物への農薬飛散に注意してください。生産履歴の記帳も忘れずに行いましょう。

※除草剤は、決められた田植え後日数を必ず確認してください。

※初期剤において、例えば「植代後～移植7日前」という記載の場合は、散布して7日後から移植が可能となります(5月10日に除草剤を散布→5月17日以降に移植可能)。



春は農作業事故が発生しやすい時期です！余裕を持った作業で、事故ゼロを目指しましょう！  
 周囲の作業者にも声をかけあって安全確認しましょう！